

いとう じ ろう ざ え もん すけ たみ

伊藤次郎左衛門祐民

一切誠実を旨とし
万事華客の御便宜を相計り

ーいとう呉服店からデパートメントストアへー



伊藤次郎左衛門祐民(1878～1940)

出典：『松坂屋創立30周年記念写真帳』1940

1925年5月には、南大津通に新築移転し、松坂屋へと改称した。新店舗は鉄骨建の地上6階建て、総面積2万㎡で、名古屋では「お城と肩をならべる存在」であった。百貨店は、先端文化の発信基地であり、宣伝誌「モーラ」（百貨を網羅するの意味）は、新しい流行の発信誌でもあった。

■近代文化の発信基地：百貨店の経営

松坂屋社長、伊藤家第15代当主の伊藤次郎左衛門祐民は、近代都市名古屋の街づくりに大きな足跡を残した。1909年、伊藤祐民は渋沢栄一、神野金之助等と渡米、海外の百貨店事情を視察して帰国した。1910年、名古屋初の百貨店「いとう呉服店」を栄町角に開業、ルネッサンス様式の地上3階建ての店舗を設け、「行灯より電灯にvariしより以上の進歩」と絶賛された。タイトルは開店に際しお客様への披露文である。



百貨店「伊藤呉服店」（栄町角） 出典：『揚輝荘主人遺稿』

■名古屋商工会議所会頭：近代的都市づくり

1927年11月には名古屋商業会所の会頭に就任し、市行政と連系しながら、民間のリーダーとして、名古屋駅改築、国際飛行場の開設、名古屋観光ホテル・和合ゴルフ場の設立などに尽力し、近代的な産業都市づくりを推進した。公会堂建設に際しては私財20万円の寄附を申し出た。

■国際交流活動の展開

名古屋の顔として来日した諸海外要人との交流、インドの詩聖タゴール（ノーベル文学賞受章）や、ビルマの独立運動の父オッタマ僧正との交流など国際活動を展開した。

1934年、仏蹟巡礼の旅に出てインドや東南アジアを回り、帰国後、覚王山地区に別荘揚輝荘（大正7年建設）で、ビルマはじめ東南アジアの留学生受け入れを行った。名古屋ロータリークラブや名古屋日蓮協会の設立にも尽力した。国際都市名古屋の形成には、伊藤次郎左衛門の活動や個性が大きく反映していた。

（浅野伸一）



揚輝荘聴松閣